

南あわじ市灘地域で 赤菊（秀の極）の栽培をしませんか？



灘地域
就農・定着応援プラン

▶ 灘地域について

南あわじ市灘地域は、淡路島の南部に位置し、温暖な気候が特徴で、人口約500人のゆったりした時間が流れる地域です。

漁業が盛んで、土生（はぶ）港では、豊富な水産物が水揚げされています。また、海に面する山の斜面では果樹（びわ、みかん）が栽培されており、電照菊の栽培も盛んな地域です。

▶ 電照菊について



南あわじ市灘地域では戦前からびわ、みかんの産地として知られていましたが、戦後（昭和24年）若手農業者6名によって寒菊栽培がはじまり、翌25年には生産者が30名と大幅に増加、菊栽培が一気に注目されるようになりました。昭和28年には熱心な青年有志の手によって露地電照栽培の試験に成功、兵庫県における電照菊栽培の発祥の地となっています。

また、灘地域では、特色ある産地として赤系の「秀の極」をブランドとしており、首都圏において非常に高い評価を得ています。



▲灘から見える沼島

▶ 求める人材と就農までのプロセス

求める人材

- ・ 3～4か月の栽培計画を立てて、コツコツと実践できる方
- ・ 手先の細かい作業ができ、花の生産に関わる仕事がしたい方
- ・ 地域の行事や共同作業に積極的に参加でき、海が見える田舎で暮らしたい方

就農までのプロセス

南あわじ市灘地域での電照菊栽培に関心を持った場合は、以下のプロセスで就農まで進んでいきます。
(個々の事情によりプロセスに若干の変更が生じる場合があります。)



STEP 1

【情報収集】

地域・生產品目、研修期間、経営モデルなど灘地域の就農定着応援プランを見て自分の目指す経営と合致しているかを検討します。

就農相談会



STEP 2

【就農相談会】

普及、JA、市の三者で色々な相談に対応させていただきます。相談シートを作成していただくと、希望品目の専門職員が相談会に参加してお話をお聞きます。
※ 子育て支援等の相談については相談後、担当課にご案内させていただきます。



STEP 3

【赤菊生産の農業研修】

灘の赤菊生産者の方々のハウスで最低2シーズン、菊の栽培をお手伝いして生産工程や栽培技術などを学びます！

STEP 4

- ・ 空きハウスを1棟借りて、赤菊栽培を開始します！
- ・ 45歳未満であれば青年等就農計画の作成も並行して行います。

▶ 電照菊の栽培における作業を少し紹介します！



【定植】

菊の苗を1本ずつ植えます。
根の出していない穂を直接植える「直挿し」という方法と、あらかじめ発根させた苗を植える方法があります。



【摘心・間引き】

1つの株から複数本収穫するために、頂芽を摘んで脇芽を出す作業を行い、出てきた脇芽を1株あたり2~3本に整理します。
(時期によってはこの作業を行わず、1株1本仕立てにします。)



【病害虫防除】

病気や害虫による被害があると商品価値が下がってしまうため、栽培期間中は定期的に農薬を散布します。



【消灯】

植えてからしばらくの間、花が咲かないように夜間電照を行います。生育が進んだ状態で消灯することで、菊が花を咲かせる準備をします。消灯後から45~55日程度で収穫が始まります。



【芽かき（摘蕾）】

消灯後に花芽が出てきます。
1本の茎から1つの花を咲かせるため、摘蕾により中心の蕾だけを残し、その後、伸びてくる脇芽を全て摘み取る作業を行います。



【収穫・出荷】

写真のような蕾の状態に収穫し、規格ごとに選別を行い箱に詰めて市場へ出荷します。
収穫時の蕾は赤く輝いて見えます！

▶ 農業経営モデル（電照菊）



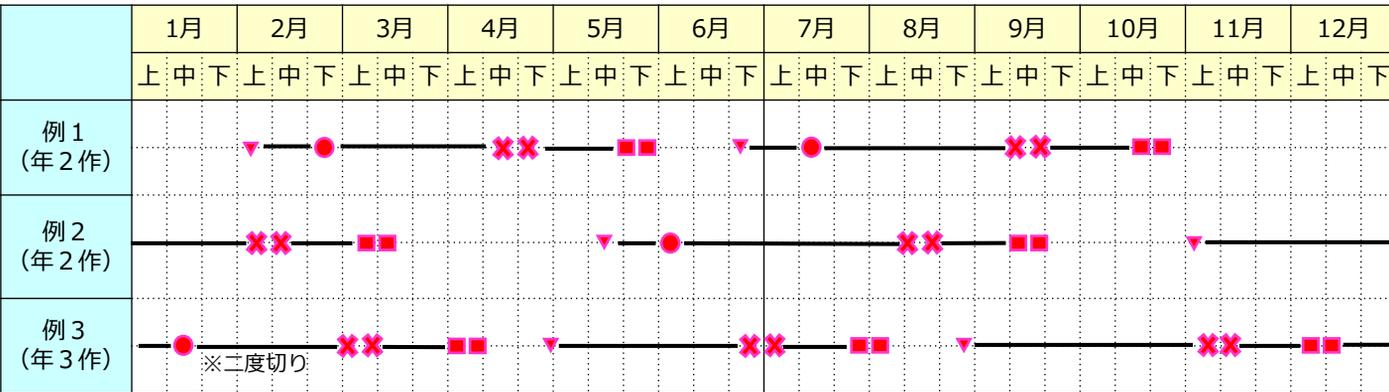
▶ 経営モデルと必要な農業用機械

	8月出荷	12月出荷	3月出荷
①販売金額	2,800,000	3,130,000	2,970,000
②種苗・肥料・農薬費	420,000	105,000	650,000
③動力光熱費	162,000	477,000	1,028,000
④荷造運賃手数料	420,000	495,000	445,000
⑤雇用費	48,000	64,000	64,000
⑥減価償却費	478,000	478,000	478,000
⑦諸材料費	15,000	15,000	15,000
⑧費用合計（②～⑦）	1,543,000	1,634,000	2,095,000
所得（①－⑧）	1,257,000	1,496,000	875,000

※10aあたりの数値（円）（一般的な施設面積は1棟3～5a）

必要な農業用機械・施設	ビニールハウス2棟～3棟、選花機、結束機、冷蔵庫、動力噴霧器
-------------	--------------------------------

▶ 電照菊栽培の年間スケジュール



▽：定植 x：芽かき □：出荷 ○：間引き

▶ 灘の花弁生産研究会員の一日のスケジュール



平常期（出荷作業がない時期）

- 6:30 起床 > 朝食
- 8:00 農作業スタート
- 12:00 お昼休み
- 13:30 午後からの農作業スタート
- 16:30 自由時間
- 19:00 夕食
- 20:30 自由時間 > 睡眠

※ 繁忙期は、5時起きで6時から農作業が始まり、お昼休みを除いて出荷・調製作業が17時まで続きますが、夕食時間は、概ね同じ時間に取れます。

▶ 灘の花弁生産研究会員の活動紹介



【出荷作業】

※ 1箱に菊が100本~150本入っています。

すべての農作業は「この時のために！」

赤菊の出荷作業は週3回、集荷場に菊を搬入して農協の協力を得ながら作業を行います。
100箱以上の出荷日もありますが、灘の花弁部会員全員でチーム一丸となって実施します！

【園地巡回】

主な出荷時期の前に部会員で園地巡回！
会員の園地を全員で巡回し、現場を見ながらそれぞれの視点で意見を交換しています。

部会員同士で技術研鑽をすることで、品質向上に努めています！



【反省会】

出荷を終えてのワンシーズンの振り返り。
市場担当者も交えて、市場や他産地の動向などについて情報交換を実施します。
部会員の皆が集まると、自然と赤菊の話に花が咲きます。

ハウスでも机上でも赤菊愛は変わりません。



▶ 灘地域では学生らを対象にした農業体験も行っています！



▲ 吉備国際大学生による赤菊の栽培についての調査や農作業体験の様子

【農業体験をした学生からのメッセージ】

灘の赤菊は市場価値が高く、安定した所得が見込めます。また、計画的に栽培することで、趣味の時間も作れて、海では釣り、山では狩猟などをされている方もいます。

お金を稼ぎつつ、海と山に挟まれた場所で田舎暮らしをしたい方にお勧めです。

【ひとことメッセージ】

- ・ 施設栽培なので、作業スケジュールが天候に左右されにくいです。
- ・ 高い技術を持ち、かつフレンドリーな先輩農家に農業を教わることができます。
- ・ 朝起きて、窓を開けると海が見えるし、夕方には夕日もきれいで癒されます。
- ・ 灘地域の気候は温かい。そして灘の皆さんは、すごくあたたかい！

灘 NADA

兵庫県南あわじ市の南東部、諭鶴羽山系の裾野に広がる灘地区は地元民が美しいと評する朝日、灘のみかん園から見る沼島などの景色が楽しめるほか、観光名所も多い地域です。

◆ 灘黒岩水仙郷

灘黒岩水仙郷は、日本三大水仙群生地となっており、南あわじ市の冬の彩を楽しめるスポットです。

諭鶴羽山の斜面一面に日本水仙が咲き誇る景色は圧巻で辺りには水仙の優しく甘い香りが漂います。



◆ BASE COFFEE

灘黒岩水仙郷が1年間を通した通年営業を開始しており、観光客やサイクリストの休憩所として活躍しています。2階には南あわじ市で人気のふくカフェ2号店「BASE COFFEE」がこだわりのコーヒーやワッフルの提供を行っています。

◆ 上立神岩（沼島）

矛先のような形をした岩が沼島のシンボルの上立神岩です。国生み神話ゆかりの場所で、高さ約30mの屹立する岩です。沼島の海岸線に見られるくにも伝説の舞台を思わせる奇岩や岩礁の象徴的な存在です。

イザナギとイザナミがオノコロ島に降り立ち、巨大な柱の周囲をまわって婚姻を行ったという「天の御柱」だともいわれています。



◆ みかん園地・びわ園地

灘地域では温暖な気候と潮風を受けて育つビワやみかんが栽培されており、潮風を浴びた濃厚な味わいが特徴です。



▶ サポート体制

私たちがバックアップします！



灘花卉生産研究会

赤色の輪ギクのみを周年出荷する全国的に非常に珍しい研究会。
研究会員6名が合計で年間約70万本の輪ギクを共同出荷している。
当研究会が選抜育種したオリジナル品種「秀の極」を中心に品質評価が高く、市場では常に高値で取引されている。
日々の情報交換や視察研修などの部会活動を盛んに行っており、技術研鑽にも意欲的に取り組んでいる。



サポートメンバー	役割
灘花卉生産研究会	赤菊栽培の知識・技術の伝承、栽培サポート
JA全農兵庫	サポートメンバー全体の総括・とりまとめ
あわじ島農業協同組合	販売、栽培資材購入のサポート
南淡路農業改良普及センター	栽培技術や経営などの改善支援
南あわじ市	就農定着応援プラン見直し及び就農に係る支援
吉備国際大学 (志知キャンパス)	学生の現地調査希望者とりまとめ